

## 研究・調査報告書

報告書番号 204	担当 札幌医科大学医学部薬理学講座
題名 (原題/訳)	
<p>Comparing and combining naltrexone and acamprostate in relapse prevention of alcoholism: a double-blind, placebo-controlled study.                      ナルトレキソン、アカンプロサート、および両者併用によるアルコール依存症の再発防止の効果：二重盲検、プラセボ対照試験研究。</p>	
執筆者	
Kiefer F, Jahn H, Tarnaske T, Helwig H, Briken P, Holzbach R, Kampf P, Stracke R, Baehr M, Naber D, Wiedemann K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Arch Gen Psychiatry 60(1):92-99 (2003)	
キーワード	
アルコール依存症、ナルトレキソン、アカンプロサート、臨床試験	
要旨	
<p>背景：ナルトレキソンとアカンプロサートはそれぞれ異なった薬理的な作用機序によってアルコール依存症の再発防止に効果のあることが示されている。しかし、両方の薬物が同じ程度に効果的なのか、両薬物の併用で防止効果が増強されるのか、などはまだよく分かっていない。そこで我々はこれらの点について、公表されているなかでは初めてのものとなる臨床対照試験を計画した。</p> <p>方法：アルコール依存症と診断されていて、アルコール中毒の治療を終えた160名の患者が無作為に二重盲検プラセボ対照臨床試験に参加した。患者にはナルトレキソン、アカンプロサート、ナルトレキソン+アカンプロサート、あるいはプラセボが12週間与えられた。患者の状態は面談、自己申告、アンケート、臨床検査によって評価された。基本的な評価結果としては、最初の飲酒までの時間、再発までの時間、断酒の累積時間が用いられた。</p> <p>結果：ナルトレキソン、アカンプロサート、ならびに両薬物併用はプラセボよりも有意に効果的であった。アルコール依存症が再発しなかった頻度についてナルトレキソンとアカンプロサートを比較すると、最初の飲酒までの時間と再発までの時間に関してナルトレキソン投与グループの方がより効果的な傾向であった。両薬物の併用療法はプラセボとアカンプロサートよりも再発頻度に関してより効果的であったが、ナルトレキソン療法とでは有意な違いがなかった。</p> <p>結論：この研究の結果はアルコール依存症の再発防止における薬理的な治療戦略の正しさを支持している。ナルトレキソンとアカンプロサート、特にその併用療法は再発防止の効果を増強すると考えられる。</p>	